

令和元年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和元年12月16日（月）15：30～16：50

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員会委員	荒井 由紀恵
教育委員会委員	橋場 正人
教育委員会委員	吉村 恭子
（事務局）企画部長	島倉 弘行
企画部次長	石田 肅一
企画課長	小尾 千智
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	松本 亮大
（教育部）教育部長	澤田 徹
教育部次長	千田 義彦
学校指導室長	小松 義幸
企画総務課長	伊藤 樹美
学校教育課長	高橋 裕輔
青少年課長	片山 学
学校指導課長	大西 智彦
企画総務課総務係長	田中 稔大

▼内 容

○島倉企画部長

ただいまから、令和元年度第2回千歳市総合教育会議を開催致します。はじめに、山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

皆さん、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。

本会議は、本年2回目、通算で10回目となります。この制度ができてから、教育委員会並びに教育委員の皆さんと、教育に関する課題やまちづくりに関する課題を共有させていただき、大変うれしく思っております。幸いにしてこの間、変化はあるものの大きな事件等はありませんでしたが、万が一子供たちに何かあったときには、全市で対応しなければならないと常に考えています。本日の会議では、今日的な課題について報告があると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

また、本日はお忙しい中、佐々木議長と太田道議にもお越しいただいております。ありがとうございます。共に勉強させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

○島倉企画部長

この後の進行につきましては、千歳市総合教育会議設置要綱第4条により、市長が議長を務めることとなっておりますことから、山口市長にお願いをいたします。

○山口市長

それでは、次第に従いまして進めたいと思います。意見交換の場におきましては、忌憚のないご意見をお願い致します。まず、はじめに平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について、教育委員会から説明をお願いします。

○小松学校指導室長

それでは、4月18日に実施されました、平成31年度の全国学力・学習状況調査の結果について、お手元の資料1を基にご説明させていただきますので、よろしくお願い致します。

(「平成31年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明。)

○山口市長

ただいま事務局から概要について説明がありました。内容が多岐にわたっており、どの点に絞るか難しいところもあるかもしれませんが、このことについて議論をしたいと思えます。ご発言のある方はお願い致します。

○佐々木教育長職務代理者

今回から、知識を問うA問題と活用力を問うB問題の区別がなくなり、一体的な問題に変わったとのことですが、具体的にはどういう意図があったのでしょうか。

○小松学校指導室長

昨年度まではAとBという区分があり、各自治体や学校では、それぞれを別々に取り組んでいたりと、活用力を伸ばすためにまず知識を身につけるといった順番で取り組んでいたりましたが、実際はA問題とB問題には強い相関関係があることから、別々に取り組むのではなく、活用を通して知識を身につけることが必要である、という考え方が根底にあると思われます。来年度から新学習指導要領が全面実施されますが、その中で「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」の3つを一体的に身につけさせるという考え方があります。「主体的で対話的な深い学び」と言われていますが、そのような考え方に変わってきたということだと思います。

○佐々木教育長職務代理者

そうするとこれからは、一夜漬けでテストに対応しようという勉強法では、点数を上げることができなくなるということですね。

○吉村委員

試験のためにひたすら暗記をしたり、暗記をするための手法を習ったりした時代から、学校の学習が変わってきたのだと思います。人とのコミュニケーションも含めて、文章をきちんと読んで理解することが大切です。パソコンやスマホに触れる機会が多いので、字を覚え不了というのもあると思います。文章の読み書きやグループ学習が必要ではないでしょうか。

○荒井委員

今回小学生においては、国語に関しては全国同様、数学に関しては全国よりやや低いとのことでしたが、前年度に比べて伸びている部分が多かったようですので、今後も同様な成果を出していただきたいと思います。中学生の方は少し低いので、検証する必要があると思います。

○山口市長

今回の結果について、小学生が伸びれば中学生も当然伸びてくると思うのですが、その辺りはどうですか。

○大西学校指導課長

今回の中学生の結果を見ると、平成28年度から30年度まで少しずつ上がって来ていましたが、今年度になって下がってしまっています。これが今年だけのものなのか、今後も続いていくのかということはまだ分からない状況です。また、今回の中学生が小学生の時に受けた全国学力・学習状況調査の結果から見ると、数学に限っては少し下がってはいますが、全国との比較では伸びている状況にあります。各学校でも状況を十分に分析して、対策を講じている段階です。

○山口市長

委員の皆さんもおっしゃったように、テクニックだけではなく、地力をつけなければいけないのだと思います。テクニックによって変わる部分もありますが、地力はきちんと上がっているのでしょうか。

○小松学校指導室長

同一集団の経年変化で見ると、概ね上がっている状況です。従って、中学校に上がっても少しずつ力をつけているとは思いますが、先ほどもお話ししたように、現在小中連携・一貫教育に取り組んでいるところなので、その中でより一層小学校で培った力を中学校で伸ばしていくことが必要だと感じています。

○橋場委員

先ほど佐々木委員からもありましたが、私もあまり勉強が好きではありませんでしたので、今回から活用力を問われる問題に取り組まねばならない中学生は大変だと思いました。中学国語で「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」の項目が全国に比べて低いという結果が出ていましたので、やはり読解力をつけることが重要だと感じました。

○山口市長

最近ではスマホを見ればすぐ答えが出るので、考える必要がないというのはあると思います。こういった機器は弊害もありますが、上手く使えば学力向上に寄与することもできます。子供たちをやる気にさせる一つのアイデアとして、国語でも数学でも絵を描く事でも、その子供の得意なことをやらせてみて、結果を評価することで自己有用感、肯定感が生まれ、これが学力向上に結び付くのではないかと思います、どうですか。

○小松学校指導室長

おっしゃるとおり、自己肯定感や自己有用感というのはすごく大事で、それが高まるともっと自分の力を高めたいという思いになるので、学力向上につながるものと思います。

○山口市長

そのための取組として何か例示できるものはありますか。

○小松学校指導室長

資料1の16ページに自己有用感に関する調査結果が記載されていますが、「自分には良いところがある」と回答した生徒の割合は、全国を上回っています。これまで、各学校で子供たちの良いところを認めてあげる取組や、児童会や生徒会活動で自分たちの目標を自分たちで決めて、これを達成することにより自己肯定感を高める取組を行ってきましたが、これが結果に表れているのだと思います。

○山口市長

分かりました。子供の勉強の好き嫌いは、教える先生の好き嫌いによるところもあったりしますし、いきなり難しい問題にぶつかってしまうことで嫌いになることもあります。数学や国語以外の、音楽や絵を描くことなどでも上手にできれば、自分でもやれるという感覚を持って、他の科目にも積極的に取り組めるようになると思いますが、そういう時間は設けているのですか。

○小松学校指導室長

一番は、それぞれの教科の学習場面において、自分の力を発揮させることだと思います。子供たちの生活で大部分を占めるのは授業の時間なので、授業の中で自己有用感を感じさせることが大切だと思います。国語や数学以外にも道徳などの授業もありますので、その中で子供たちの行いを認めてあげることも大切だと思います。

○佐々木教育長職務代理者

少し気になるのが、資料1の14ページで、中学生の「今住んでいる地域の行事に参加している」項目が全国より低いことです。なぜここまで全国と差があるのでしょうか。コミュニティスクールなども推進している中で、この結果は少し残念な気がします。

○荒井委員

町内会にもよりますが、子供会自体がなくなっているところもあります。もちろん盛ん

なところもあると思いますが、行事自体が小学生を対象としているものになっていて、中学生はなかなか参加しづらいということもあるかもしれません。

○小松学校指導室長

いま荒井委員がおっしゃったように、10ページの小学生の結果を見ると、本市は全国とほぼ同等の結果となっていますので、そういった理由もあるかと思います。

○山口市長

あるいはそういった余裕がないのかもしれませんが。最近の子供のスケジュールはすごいですよ。特に中学生は部活や塾などで本当に忙しいようです。

○佐々木教育長職務代理者

やはり子供を教育していく中で、それでは偏ってしまうのではないかと思います。総合的な人間を形成するのが難しいのではないのでしょうか。

○小松学校指導室長

学校では、学力、身体、こころのバランスを考えて育てることを重要視していますが、その中でどうやって学力を高めるかというのが難しいところです。

○佐々木教育長職務代理者

この子供たちが大人になってまちを作っていくわけですから、慎重にやっていかなければいけませんね。

○荒井委員

道徳の時間などで地域のボランティア活動などを紹介するなど、学校単位で取り組んでいただけると良いと思います。なかなか個人では難しい部分もあるかと思います。

○山口市長

今年の商店街のハロウィンイベントは多数の親子が参加し、大変な賑わいだったと聞いています。そういったイベントには参加するわけですから、何か貰えるイベントなら集まるかもしれません。

○吉村委員

町内会のイベントが減っているのは事実ですから、中学生、高校生がリーダーとして町内会とタイアップして行事をやっていただけると良いと思います。小学生は親と一緒に参加するでしょうが、中高生は親とは参加したがるらないと思うので、自らが主体的に関われるような行事だと良いかもしれません。

○山口市長

教育長はどうですか。

○佐々木教育長

今の話の中で、地域との関わりについてですが、来年度からコミュニティスクールの取組を全校で行いますので、その中で地域との連携を進めていきたいと思ひます。学校によって状況は異なりますので、それぞれに合わせた進め方があるのかなと思ひます。

また、学力の話がありましたが、私はやはり学習に取り組む時間の問題があるのだと思ひます。先日、市P連の方とお話をした際に、小学生に比べて中学生はスマホなどに触れる時間が長いとの話がありました。しかし、単純にもっと勉強しなさいというわけではなく、時間の使い方を工夫して生活習慣を見直すことが必要なのではないかとと思ひます。

○吉村委員

資料のデータを見ると、全国と比較して上位層が薄く、下位層が厚い傾向があります。もっと上位層が増えてくれれば下位層を巻き込んで全体が上がりやすいということもあると思ひますので、学習支援員など小学校で成果が出ている取組を引き続き実施してほしいと思ひますし、小中一貫教育なども活用できたら良いのではないかとと思ひます。

○山口市長

現在行っている習熟度別の取組は、下位層には学習支援員による支援等があると思ひますが、上位層はどうなのでしょう。

○小松学校指導室長

習熟度別少人数指導ということで、グループを少人数に分けますので、下位層の方が手厚いことは確かですが、上位層に対しても通常より一人の先生が教える生徒の人数は少ない形にはなっています。上位層の学力向上の取組として、昨年度から発展的・応用的な問題への取組なども行っています。

○山口市長

保護者としては、進学先の学校のレベルなども気になるところでしょうから、頑張って良い学校に進む子供が増えれば、全体のモチベーションアップにもつながるかもしれませんね。

○佐々木教育長職務代理者

話は少し変わりますが、例えば大規模校などにおけるクラス分けの際に、まず成績を加味して振り分けるものなのでしょう。

○小松学校指導室長

まずは子供たちの希望を優先します。もちろん子供の能力には差がありますので、その点も考慮したクラス分けは行います。習熟度別少人数指導では、下位層をある程度手厚くするために人数を少なめにすることはあります。

○佐々木教育長職務代理者

小学校では基本的に担任の先生が全教科を教えますが、中学校では教科ごとに先生が変

わかりますので、先生たちの連携など、学校全体で取り組んでいく姿勢が必要になると思います。もう少し成果を期待したいですね。

○山口市長

勉強に取り組む時間が少ないというのもあると思いますが、勉強する場所がないという話も聞きますが、どうなのでしょう。

○小松学校指導室長

学習場所については、基本は家庭で行うものだと考えていますし、学校でも放課後学習の取組も行っていきますので、場所がないとは言い切れないのかなと思います。土日に家庭以外でとなれば、図書館などを活用することにはなると思います。

○山口市長

図書館の席がなかなか空いていないという話も耳にします。図書館を何か所も作るというわけにはいきませんが、地理的要因で利用しづらい方がいるのも事実です。

○高橋学校教育課長

今回の資料における学習時間には、塾に通っている子は塾での学習時間も含まれています。本市は全国に比べて塾に通っている子供が少ないというの、学習時間の差に表れていると思います。

○山口市長

北海道の平均と比べても少ないのですか。

○大西学校指導課長

札幌市なども含まれますので、北海道の平均と比較しても若干少ない状況です。

○佐々木教育長職務代理者

今年、佐賀県の武雄市に研修に行かせていただき、書店のツタヤが運営している図書館を見てきました。小学生はあまりいませんでしたが、中学生や高校生がたくさん勉強していました。スターバックスなども入っており、賑やかに話しながら勉強しているグループや、個室に入ったり、パソコンを持ち込んで勉強していたり、様々な活用の仕方が見られました。感想としては、学習している子供たちの数が大変多いと感じました。子供によって勉強しやすい環境は様々で、誰かと一緒に勉強する方が良い子もいれば、音楽を聴きながらやった方が集中できる子もいて、いずれにしても学習をしやすい図書館づくりがなされていたように感じ、すごく参考になりました。

本市の図書館は青葉公園にあり、住んでいる地域によっては遠くて行きづらかったり、冬期間は自分たちだけでは行けなかったりするので、勉強できる場所を街中に用意することも考えていく必要があるのかもしれません。

○荒井委員

自分の子供も中学の時は塾で勉強する機会が多かったせいか、家で勉強する習慣がないので落ち着かない様子でした。そのため図書館やタウンプラザなどを利用して勉強していたようです。こういったスペースがたくさんあると良いかもしれません。

○佐々木教育長

先日議会で答弁したのですが、教育委員会としては学校と家庭が基本であると考えていますが、実際には図書館やタウンプラザなどで勉強している子も多く見かけます。家庭にいとテレビやゲームなどの誘惑も多いので、外で勉強した方が良いという子や、友達と勉強した方が良いという子もいるのは事実だと思います。しかし、そのような場所を提供することを、果たして市がやるべきなのかというのはまた違う話かと思えます。今後は図書館の更なる充実や、また何か違う形で考えていければよいと思います。

○吉村委員

高校などでは学校に残って勉強する子も多くいます。学校なら、分からない部分があればすぐ先生に聞けるというメリットがあります。中学校は部活動に取り組んでいる場合も多いので、同じようにとはいかないかもしれませんが。

○佐々木教育長

子供たちの学習場所を統計的に調査したわけではないので、現状を把握しきれてはいませんが、そういった場所があれば良いとは思いますが。ただ、教職員の働き方改革を推進していることを考えると、難しい部分もあるかもしれません。何とか工夫してできないだろうかとは思いますが。

○佐々木教育長職務代理者

本来であれば、子供たち自身や家庭が工夫するものだと思うので、我々がそこまで考えて工夫する必要があるのかという疑問もあります。

○吉村委員

札幌市に最近できた施設などには、勉強できるようなスペースが設けられているようです。千歳市の街中にもそういった場所があれば良いとは思いますが。

○山口市長

勉強しながら、友達と雑談して息抜きをし、また勉強できるような、そんな環境が必要なのかもしれませんね。

○佐々木教育長職務代理者

友達同士で勉強するというのも、お互いを高めあう一つの方法ですね。

○山口市長

子供が勉強する場所の確保というのは一つのテーマだと思いますが、教育委員会として考えはあるのでしょうか。

○澤田教育部長

教育委員会だけでは難しいテーマでありますので、全庁的な対応が必要と考えています。

○荒井委員

話題は変わりますが、市P連と市の協働事業として実施していた家庭生活宣言について、アンケートを実施しましたので結果をお話させてください。

○高橋学校教育課長

それでは、ご説明します。アンケートは市P連が中心となって行っていただきました。本事業についてどのような成果があったかについて聞いております。まず認知度についてですが、前回実施時は50%を下回る結果でしたが、今回は70%を超える結果となっており、かなり浸透してきていることが伺えますが、引き続き取り組んでいきたいと考えています。また、他の項目についても、早寝早起き朝ごはんについては90%近い達成度であり、SNS利用時における個人情報の取扱いについても改善がみられていますが、先ほど話題に上がった学習時間については、まだまだ少ないということも分かっております。今後も市P連と連携しながら、家庭生活宣言を通じた学習時間の確保にも取り組んでいきたいと考えています。

○山口市長

子供たちはどんどん大きくなっていきますが、下からまた新しい子供たちが入ってきますので、常に認知度を高める取組をしていくことが必要ですね。他にご意見はありますか。

○橋場委員

自分の上の子供にもスマホを持たせていますが、下の子供も持ちたいと言い始めています。どこの家庭もそのような状況だと思しますので、家庭生活宣言にあるスマホ等の利用に関する家庭内のルール作りなどを徹底してほしいと思います。

○荒井委員

スマートフォンの所持率などは情報を持っていますか。

○高橋学校教育課長

資料にも記載していますが、学年が上がるにつれて所持率も上がっていきます。小学6年生では26.6%、中学3年生では66.3%となっています。

○佐々木教育長職務代理者

最近だと、3、4歳からタブレットやスマホに触れる子ども少なくありません。音声検索などの機能もありますので、早いうちから対応が必要だと思います。使わせないということよりも、使い方を教えるという視点も必要だと思います。そういう指導は学校では行わないのでしょうか。

○小松学校指導室長

学校の授業においても、業者の方に来ていただいて、スマホの使い方を誤るとどんなトラブルが起こるかなどを伝えています。

○山口市長

それでは、次の議題に移らせていただきます。もう一つのテーマは、通学路等の安全対策についてです。説明をお願いします。

○小尾企画課長

では、資料2に基づいてご説明いたします。

(「通学路等の安全対策」について説明。)

○山口市長

このことについて、ご意見はありますか。

○佐々木教育長職務代理者

前回市長がおっしゃっていました、これまでどのような対策が取られてきたかについて、大変分かりやすくまとめていただいていると思います。報道などでも取り上げられている高齢者を対象とした取組についても、難しい部分はあると思いますが、取り組んでいただいていることが分かりました。ガードレールの設置等の対策が必要な箇所については、来年度是非実施していただきたいと思います。道路には市道の他にも道道や国道もございしますが、本日は太田道議も傍聴にいらしておりますので、ぜひご尽力いただければと思います。信号の新規設置などはなかなか難しいとは聞いていますが、大きな事故が起きてからでは遅いので、是非対応していただきたいと思います。

また、見守り隊もかなり高齢化が進んでいると思いますので、引き継ぎ等も必要になってくるのではないかと思います。

○荒井委員

個人的には、見守り隊にだけ任せるのではなく、保護者も参加するべきではないかと思っています。見守り隊の方からも、そのようなご意見を伺っています。毎日は難しいにしても、持ち回りなどで月に一度くらいなら、参加できる家庭も多いと思います。学校から願ひするのは難しいと思いますので、市P連から伝えることができないかなと考えています。

○吉村委員

近年話題になっている高齢者の運転についてもまとめていただいて、運転免許返納サポートなども実施いただいているようですが、特に小学校の近くなどに住んでいる高齢の方については、生活に大きな支障のない場合は、返納を検討していただきたいと思います。返納できなくても、路面状況の悪い冬期間や、子供たちが通学している時間帯などの運転を避けるなどの配慮が必要かなと思います。制度については周知を進めていただいて、運転者側も健康のために歩くことも考えてほしいですね。

○橋場委員

せっかくここまで調査していただいて、対策必要箇所があることが分ったわけですから、ガードパイプの設置についてはぜひ早期に行ってほしいと思います。

また、最近特に暗くなるのが早くなってきましたので、ガードパイプにLED等の照明を付けてみても面白いかもしれません。

○山口市長

このガードパイプ設置等については、実施予定はどうなっていますか。来年実施可能ですか。

○小尾企画課長

来年度の実施に向けて、調整を進めています。LEDの話がありましたが、最近は反射板の付いたタイプも用意されています。

○佐々木教育長職務代理者

最近では下校時間もすっかり暗くなっていて、中学生などは学生服も黒いので目立たないため危険だと思いますので、何か対策ができないかなと思います。今話のあった反射板などをカバンに付けたり体に巻いたりするなどはどうかなと思います。

○小尾企画課長

中学生は配布してもなかなか付けたがらないかもしれませんね。

○佐々木教育長職務代理者

デザインで付けたくなるようなものを考えたりできないでしょうか。

○山口市長

このことについては、通学路交通安全対策専門部会などで、総合教育会議でこのような意見が出たということで、検討するようにしてください。

見守り隊も以前は1,000人以上いらっしゃったと思いますが、今はここまで減っているんですね。

○佐々木教育長職務代理者

見守り隊の平均年齢はどの程度なのでしょう。

○片山青少年課長

いま手元にデータはありませんが、高齢化は進んでいると思います。

○小尾企画課長

みどり台地区などではそもそも高齢者が少ないので、見守り隊のなり手が少ないという問題もあるようです。

○荒井委員

そういった地区では特に保護者の参加が必要だと思います。クラスの委員はできなくても、持ち回りなどで年に1度程度ならできないこともないのではないのでしょうか。

○佐々木教育長職務代理者

中学生が小学生の通学に付き添うなどはできないのでしょうか。

○荒井委員

中学生の通学にかかる時間などもありますので、難しい部分もあるかもしれませんね。

○山口市長

教育長からは何かご意見はありますか。

○佐々木教育長

子供110番の家などについても、拡充を続けていきたいと思ひますし、現状の把握については引き続き行っていきたいと思ひます。

○山口市長

では、概ね意見も出たかと思ひますので、ここまでとさせていただきます。本日いただいた意見については、取り組めるものがないか各部で検討してください。特に通学路交通安全対策専門部会などで検討することと、建設部など関係部にも検討するよう指示してください。

それでは、意見交換はここで終了させていただきます。

○島倉企画部長

ありがとうございました。今年度の総合教育会議は今回を持ちまして終了となります。来年度の会議につきましては、第1回会議を5月頃、第2回会議を11月頃に開催する予定です。この他、緊急的に開催が必要な場合につきましては、随時開催致しますのでよろしくお願い致します。

以上を持ちまして、令和元年度第2回千歳市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

○山口市長

ありがとうございました。